

浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

慈光照護のもと、門信徒のみなさまにはますますご清栄のことと慶賀に存じます。

今年は春から好天が続くことが多く、さわやかに過ごせることが多かったですが、その反面、水不足や農業への影響が心配されています。

さて、早くも「永代経」のシーズンがやって参りました。当寺院でも6月13日(水)に厳修いたします。そこで、勝山市の河久保道場の水上甚栄(釋照榮)さんの作っておられるホームページから永代経について引用させていただきます。

・永代経について

『永代経』とは、そのような名前のお経があるのではなく、『永代読経』の略で、「永代に渡ってお経が読まれる」という意味から、そう呼ばれているだけです。

また『永代経』には、「お寺が永代に存続し、み教えが大切に受け継がれるように」という願いが込められた意味もあります。

したがって、尊いお念仏のみ教えを伝えてくださった、ご先祖の遺徳を偲び、私自身が聞

法に励んで、今度はその法灯を子孫に伝えていってこそ、その名の通り『永代経』と言えるのです。

永代経法要の心は、次の二つだと言って良いでしょう。

1. お寺が、永代に護持されていくこと
2. 子や孫が、代々み教えを聞き慶ぶこと

・永代経法要について
生前中に仏法を聞き得た喜びとともに、「子や孫へ教えを聞くことの大切さが伝えられていくように」との願いをこめて、永代経懇志をあげられた先祖の遺志が、この『永代経法要』の基になっています。

ご先祖の願いや、永代経懇志のおかげで寺院が護持され、仏法を聴聞させていただけるのです。

「永代経法要」には、家族揃って、お聴聞させていただきますましょう。それによって子や孫に仏法を伝えていくことができるのですから。

「永代経法要のご案内」

日	14時〜	19時〜
13日 (水)	速夜 仏説無量寿経 四十八願 法話二席	初夜 新制 仏説観無量寿経 法話一席

福井市教応寺住職
本願寺布教使
ご法話

奥田 順誓 師です。

「印度仏跡訪問写真展」

第3号でもお伝えしましたが、当寺院の若院(釈淳浩)がインドへお釈迦様の仏跡を訪問させていただいた際に撮影してまいりました写真のいくつかを、永代経法要の機会に本堂にて展示したいと思っております。素人のへたくそな写真ばかりですが、二千五百年前に応身仏として人間の姿でこの世に現れて下さったお釈迦様が、覚りを開かれ法を説いて歩まれた道をたどらせていただいた喜びを、お聴聞の皆様にもぜひお伝えしたいと思っております。ご門徒のみなさん、せっかくお寺まで足を運ばれるのですから、どうかこのご法縁を大切にいただいでご参詣くださいますようお願いいたします。

「読者の声より」

ご門徒のOさん宅にお参りさせていただきましたとき、「いつもあげていただく仏説阿弥陀経の意味を教えてください」と言われました。浄土真宗の根本の教典である『浄土三部経』の中で『小経』と略されます阿弥陀経では、お釈迦様が お念仏をおすすめてくださっているのです。阿弥陀如来の本願を疑いなく

信じさせていただくお念仏の行者は、不退転の位について往生浄土が定まるのです。では、お読みください。

私はこのように聞きました。あるとき仏（釈尊）はインドの舎衛国（シユラーヴァステー）という国にある祇園精舎ぎおんしょうじやに千二百五十人の修行者とともにおられた。

仏は修行者の一人である舍利弗しやりほつ（シャーリプトラ）に向かい、こう言われた。

「ここから西方、十万億の諸仏の国土を過ぎたところに『極楽』と名づけられる世界がある。そこには阿弥陀仏という仏がおられ、いま現在も法を説かれている。この世界は、一切の苦がなく楽のみであるから、極楽と言われる。

極楽にはさまざまなみごとな光景で飾られている。

阿弥陀仏というのは、その仏の光明が無量であり、十方の国を照らすのに障碍となるものがないから、『限りなき光明（無量光、アミターバ）』と言われる。またこの仏と、この仏の国土にいる人民の寿命が無量であるから、『限りなきいのち（無量寿、アミターユス）』とも言われる。

また、極楽国土には無量無数の菩薩たちがおられる。生ある者たち（衆生）は、その極楽国土に生まれたいと願いをおこすべきである。なぜなら、その国に生まれるならば、そのような善き人々とともに一所に会うことができるからである（俱会一処）。

その国へは、わずかばかりの善行によつてで、往生することはできない。阿弥陀仏の名号

をしつかりと取り保つて（執持名号）、あるいは一日、あるいはないし七日、一心不乱であれば、やがて人は臨終において心が顛倒せず、阿弥陀仏の極楽国土に往生することを得るのであろう。だから人はかの仏国土に生まれたいとの願いを起すべきである。

さて、このように、いま私（釈尊）が阿弥陀仏の徳をほめたたえているように、東方・南方・西方・北方・下方・上方という六方の世界にまします、ガンジス河の砂の数（恒河沙数）ほどに多数の諸仏も同様に、『あなたたち生ある者たち（衆生）はこの一切諸仏に護念された経を信じなさい』とほめたたえておられる。

あなたたちはみな、このような私（釈尊）の語および諸仏の所説を信じ受け入れるべきである。

もし人が、かの阿弥陀仏の国に生まれたいとの願いを既に起こしたならば、あるいはいま起こしつつあるならば、あるいは将来起こすであろうならば、その人はみな、この上ない正しいさとりを得ることからもはや退くことがなくなり、かの国土に既に生まれ、あるいは今生まれつつあり、あるいは将来生まれることであろう（若有人、已発願、今発願、当発願、欲生阿弥陀仏国者、是諸人等、皆得不退転、於阿耨多羅三藐三菩提、於彼国土、若已生、若今生、若当生）。だから人はかの仏国土に生まれたいとの願いを起すべきである。

時代の濁り・生けるものの濁り・偏見の濁り・命の濁り・煩惱の濁りという五濁あるこの娑婆世界の中にあつて、この上ないさとりを得て、世間の人々のためにこのような信じ難い法を説くと

いうことは、私（釈尊）にとつても、甚だ困難なことである」

このように仏がこの経を説き終わられると、舍利弗以下の聴衆は歡喜・信受し、礼をなしてその席を去つた。

※さらに詳しく知りたい方は、本願寺出版社から『浄土三部経（現代語版）』が出ています。お寺までお問い合わせいただければご紹介します。

「本願寺念仏奉仕団参加募集」

わたしたち福井教区阪北組では、例年の門徒会運動の一環として本願寺の清掃を計画いたしました。全国各地より多数の本願寺派のご門徒衆（御同行・御同朋）がご本山の清掃に集まります。わたしたちの念仏奉仕団は本年9月21日（金）～22日（土）の1泊2日の日程で実施します。募集定員は40名です。定員になり次第募集を締め切りますので、参加希望の方はお早めにお寺までご連絡ください。住職も参加します。

気持ちよい秋空のもと、ご本山の清掃奉仕に汗を流し、ご門主のお話をいただきます。また、ご法話を聴聞し、朝の凜とした空気の中、ご本山のお晨朝にお参りさせていただくことは本当にお有り難いことです。帰敬式（おかみそり）も受けていただくことができます。愛山護法の念を深めるこの機会をお見逃しなく。

「編集後記」

スペースがなくなつてしまいました。また次号でお会いしましょう。 合掌